

令和6年度 学校評価表

学校教育目標		夢や目標をもち　ともに高め合う子どもの育成														
a　ミッション		深い学びの実現を目指したコミュニケーションの能力の育成					a　ビジョン		(1)学校運営協議会に基づき、学校、保護者、地域が協働して学校文化を創造する学校 (2)「共同体感覚」を学級、異学年、学校全体に醸成できる学校 (3)「ことば」を中核とした人間関係づくり、自己表現ができる児童を育成する学校					尾道市立日比崎小学校		
評価計画							自己評価					学校運営協議会委員評価			改善計画	
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント		m 改善案
											イ	ロ	ハ			
（コミュニケーション能力の育成に関わること） 資質・能力の育成に 自己理解・自らへの自信	確かな学力を育成する	学びに向かう意欲が高まる教育環境を創造し、自律的に学ぶ児童を育成する。 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成する。	・外国語科、外国語活動で培ってきたコミュニケーション能力を他教科へと発展させるために「学びの質を深める話し方、聞き方」を全学年に導入し、相互授業参観を通して徹底させる。 ・国語科における物語文、説明文の授業づくりを展開し、児童の読解力、表現力を身につけるとともに、対話型の授業を促進する。	・「小学生のコミュニケーション能力に対するパフォーマンス尺度」による5月、12月間比較により、肯定的回答が向上する。 ・「自律的学習動機尺度」の5月－12月間比較による肯定的評価の向上 ・国語科の学期末テストにおける学級平均が期待値比較3ポイント向上する。（通常学級）	100	話す 71.3% 聞く 79.7% 協力 75.5% 調整 73.8% 応答性 73.8% 依頼 73.2% 内部 72.5% 同一化 86.1% 取り入れ 65.1% 外的 61.1% 学期末 87.5% (期待値+4.6)	話す 70% (+1.3) 聞く 78.9% (+0.8) 協力 72.9% (+3.2) 調整 71.1% (+2.7) 応答性 71.1% (+2.7) 依頼 71% (+2.2) 内部 70% (+2.5) 同一化 82.4% (+3.7) 取り入れ 60.8% (+4.3) 外的 54.4% (+6.7) 学期末 87.1% (期待値+5.7)	97.1%	B	<結果> ・小学生のコミュニケーション能力に対するパフォーマンス尺度（1～6年）の肯定的評価の平均は、72.4（7月-2.2）%だった。 ・自律的学習動機尺度（1～6年）の肯定的評価の平均は、66.9（7月-4.1）%だった。 ・学習動機について、取り入れの調整と外的調整が下がっている。特に、外的調整については、昨年度と比べると5.9ポイント下がっている。 ・国語科の学期末テストにおける学級平均は、87.1(期待値+5.7)%だった。 <課題> ・コミュニケーション能力については、まだ目標に対して十分ではない。 ・主体的に学習する態度については、学習することのおもしろさや自分のためにするという目的意識を高めていく必要がある。。	6			○学びに向かう意欲を高めるには失敗を恐れず挑戦できる文化を育むことが重要であると思います。失敗を学びの一部として受け入れることのできる教育の場としてこれからも自律的に学ぶ進んでください。 ○コミュニケーション能力自体を評価することは大変難しいと思います。子供達が思っているコミュニケーション能力は一人一人違うのではないかと（「人見知りをしないこと」「自己肯定感が強いこと」等、様々）。全てまとめてコミュニケーション能力アップと捉えるのかどうかという点で難しいですね。 ○学力アップについては一人一人に合った指導をするしかないのではと感じます。 ○人前で自分の意見を発言することが苦手な児童の意見を拾い上げ自信がつくようなしつけを積極的に行ってもらいたい。 ○話し合い活動を継続的に取り組むことでコミュニケーション能力が向上し、中学・高校、社会で役立つことと思います。 ○子供の学力支援にかかわって、卒業生（高校生）が長期休業中等にボランティアとして学習支援をおこなうのはいかがでしょうか。ボランティア参加の証明書等を発行してあげると高校生の進学の評価もあがりウィンウィンの関係が作れそうです。	○今後も「人とかかわること」「感謝する気持ちをもつこと」「相手を応援する気持ちをもつこと」「人のために自分の力をかすこと」の指導を続けていく。 ○「教室は間違えようところだ」という発想の仕方を根強く定着させ、一人一人の児童に「将来の夢や実現したいことを描かせること」を大切にしながら、より自己の変容を感じることができる振り返りの工夫を校内で検討していく。 ○学びの質を高める話し方・聞き方を土台に、国語科・外国語科でコミュニケーション能力を伸ばし、自分が変わったことを自覚させることができるよう、授業中だけでなく、様々な場面で取組を続けていく。	
		豊かな心と健やかな体を育成する	他者の存在を意識し、他者とともに伸びようとする「共同体感覚」を身に付けた児童を育成する。 協同的な学校生活の場を意図的に設定し、自己肯定感、役立ち感、憧れ感、リーダーシップ、フォロワーシップを醸成する。	・「共同体感覚」をベースとした学級経営を文化として定着させる。（学級力向上、クラス会議） ・異学年交流活動（ハッピーフレンズ活動）を編成し、多様な人間関係づくりの場面を創造する。 ・学校全体を通して、課題解決、企画創造活動を推進させる。 ・SSR教室を年間を通して運用する。	「共同体感覚測定尺度」により、5月－12月比較により、肯定的回答が向上する。 アセスの生活満足度50以上の学級数 「チャレンジ精神」に係る児童（5、6年）のアンケートにより行動変容が見られる。	100	自己理解 平均 71.5 自己肯定感 平均 73.3 アセス 75 チャレンジ精神 平均 86	自己理解 平均 71.7 (+0.2) 自己肯定感 平均 75.1 (+1.77) アセス 66.7 (+8.3) チャレンジ精神 平均 86.2 (+0.2)	自己理解 100% 自己肯定感 102% アセス 89% チャレンジ精神 100%	A A B A	6			○協同的な学校生活を意図的に設定することにより児童は協力し合い互いに成長する力をもつ社会の一員としての自覚をもつことができると思います。効果的な学びの促進のため継続して下さい。 ○ハッピーフレンズ活動等、学内でコミュニケーション能力を学ぶ以外に、校外でも学んで欲しい。 ○ハッピーフレンズ活動で、楽しみながら憧れ感等を育成できているのだろうと思います。引き続き学校全体での成長を期待しています。	○共同体感覚・生活満足度・チャレンジ精神の全ての項目に対しての取り組みとして、学級内や学年内で普段から活躍する場を与えただけでなく、縦割り班遊びや掃除などの異学年交流を継続し、自分の良さを知り、より他者と関わる場を継続的に設定する。また、5・6年生が活躍できる場（異学年交流活動のリーダーや成果発表等）を意図的・計画的・継続的に実施する。さらに、褒め合う場を節目節目でつくることを意識し、行事後などの一括の評価だけでなく、定期的に褒め合える機会をつくり、自己有用感を高める機会を増やす。	
			主体的に健康な体づくりを行う児童を育成する。	・委員会を中心に体力づくりの取組を計画し、意欲的に体力づくりを楽しむ児童を育てる。 ・主体的に健康づくりをしようとする児童を育てる。	・体力づくり、健康づくりに関する取組状況アンケートを5月・7月・12月に実施し、初回と比べ最終回で肯定的評価が5ポイント向上する。	100	体力 づくり 92% 健康 づくり 86%	体力 づくり 88% 健康 づくり 89%	体力 づくり 96% 健康 づくり 103%	B	<結果> ・「体を動かすことが好きですか。」という質問を肯定的に回答している児童の割合が、5月で90%、12月で88%と－2%下がった。 ・「休憩時間には外遊びや体育館での遊びに進んで行っていますか。」という質問を肯定的に回答している児童の割合は、81%だった。 ・「生活リズムを整える気持ちで達人カードに取り組ましましたか。」という質問を肯定的に回答している児童の割合が、5月で86%、12月で89%と＋3%上がった。 <課題> ・環境的要因や気温が低下していることから外で遊ぶ児童が減ってきている。 ・長時間電子メディアを利用している児童が固定化している。	6			○健康の重要性を理解させ、自ら選択し行動する力を育むことが不可欠であると思います。児童は生涯にわたって健康な生活を送り基盤を築くことができると思います。 ○体力づくりは「わざわざ学校が鍛えてあげる時代」なのでしょうが、難しいですね。 ○持久走チャレンジでの「自分への挑戦」は良い取組だと思います。立地条件から場所の確保は難しいと思いますが体力向上に向けて教室でもできることに取り組んでいただきたいと思います。 ○私自身が運動が苦手なので自分に挑戦する走りはいいと思います。外で外周もよし、住民の応援もよしですが苦手な子にとっては苦痛でしかないです。	○体を動かすことは基本的に好きな児童が多いが、環境的要因や気温低下の面から外遊びをしようとする児童が減ってきている。また、駐車場で縄跳びを実施していたが、安全面を考慮して縄跳びの取り組みが難しくなった。そこで、体育館の割り当てを増やしたり、体育委員が企画した「鬼ごっこ」を実施したりし、外遊びの楽しさを呼びかけていった。今後も取組を継続・充実し、児童が遊びや運動を楽しみながら、体力を高めていけるようにしていく。 ○生活リズムを整えるために、達人カードの取り組みで工夫している児童を児童朝会や放送で紹介していった。電子メディアを長時間見ることの影響などを各学級や全校で指導していく。また、家庭にも呼びかけ、保護者も一緒に協力してもらえるように呼びかけていく。
連携に者関、わ地域との	教社会に動開のか推れ進た	地域社会の中に位置付く学校をめざし、学校運営協議会における協力体制を確立する。	・学校における教育活動を広く広報し、保護者、地域の協力体制を構築する。 ・コミュニティースクールによる「地域学校協働活動」の促進を図り、児童の教育活動に地域人材の積極的な参画を促す。（週1回、学力補充に地域人材の協力を得る。）	・保護者に対するHPの更新頻度、更新内容に関するアンケートにおいて、肯定的評価が80%を超える。 ・各学年の教育活動に地域人材を活用した回数が10回を超え、及び地域人材を活用した授業に関する児童の肯定的評価80%を超える。	100	HP アンケート 80.2% 4回（クラブ） ボランティアから学ぶ 80.79%	HP アンケート 80.9% 25回（クラブ） ボランティアから学ぶ 78.88%	HP アンケート 100% 340% ボランティアから学ぶ 98%	A A B	<結果> ・HPに関する「学校のホームページは児童の学習や生活の様子を把握するために有効である」のアンケートにおいては、80.9%（12月）だった。 ・地域人材を活用した回数は34回で、11月より毎週水曜日に1から3年生の学力補充に来ていただいた。児童アンケートの「ボランティアから学びたい」の項目においては、78.88%（12月）だった。 <課題> ・週1回の学力補充の開始が、11月になった。また、ボランティアに来ていただく計画が学校内で調整できておらず、連携がうまくできないときもあった。 ・児童が地域の方に感謝の気持ちをもてるように、指導していく必要がある。	6			○地域社会の中に位置付く学校を目指し学校運営協議会における協力体制を確立してください。色々なボランティア活動の体制が必要と思います。（PTA・大学との連携等） ○ボランティアに関わる周知をもっとする必要があると思います。 ○HP更新、学校便り等情報発信を積極的に行っていただけであり地域、保護者の信頼度も高いと思います。 ○ボランティア活動においては保護者にも協力依頼しても良いのではないかと思います。	○後期では、HPに掲載する学年が偏らないように意識的に掲載を行った。引き続き行っていくとともに、参観日の懇談や学校たより等で、HPの閲覧を保護者へ呼びかけていく。 ○学校・地域が1年間の見通しをもって、地域人材を活用した教育活動が行えるよう、年間計画を作成する。 ○地域の方への感謝の会を開く等、児童が地域の方への感謝がもてる取組を考えていく。	

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80
B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。